

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習状況の改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	79.0	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.3	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.1	92.4

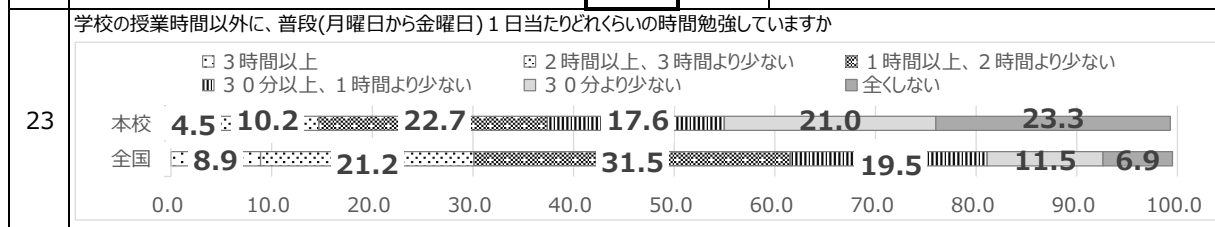
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎全国平均と同様の数値が見られ、生徒が主体的に学習に取り組み、対話的な活動を通して学びを深めよう意識していることがわかります。

●1日あたりの学習時間が全国平均に比べ、少ない傾向にあります。特に「全くしない」の割合が高く、学習習慣の定着が課題となっています。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.7	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.4	79.0



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	83.5	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	61.9	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	89.8	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.0	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎学校生活を楽しんでいる様子が見え、

◎人の役に立ちたい、社会をより良くしたいと思う割合が高く、当事者意識の高さがうかがえます。

●「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合が全国平均よりも低く、現在の自己肯定感の高さを将来の夢へつなげる支援が必要です。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	73.3	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

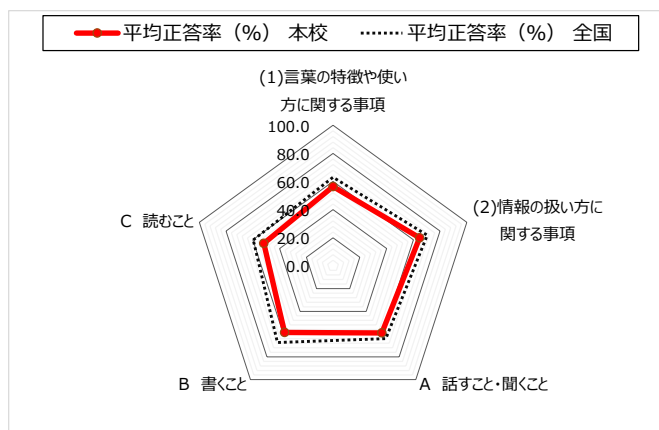
- 考えをまとめて書く力を育むために授業で振り返り等で「考えを書く」時間を設けます。定期的に学年や学級において目標を立てる機会を設け、振り返りを行うことで達成度を確認し、自己肯定感を高めています。
- 家庭での学習時間を増やすため、学習用端末の使用を勧めます。自主的に取り組みやすく学習経過を自分で管理しやすい「eラーニング」等の具体的な学習方法を提示していきます。

【ご家庭では】

- タブレットやスマホの使用について、本人を交えて各ご家庭でルール作りなどの話し合いの場面をつくり、定期的な見直しや声かけを適宜していくことで生活習慣の見直しにつなげることが期待できます。
- 学校から出る学習課題以外に学習用端末で取り組むことができる教材を生徒に提示します。デジタル教材を活用した学習の時間を増やすことで、家庭学習の時間が増えることが期待できます。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	56.4	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	64.7	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.0	63.9
	B 書くこと	58.6	67.4
	C 読むこと	51.8	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	65.2	72.7
短答式	52.4	55.8
記述式	36.9	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 短答式の問題形式の正答率が全国平均に近い数値がでています。また、全国平均からは低かったですが、表現の効果を考えて描写することができるか問う問題で高い正解率が見られました。

● 思考力・判断力・表現力等の「書くこと」の数値が全国平均と比べて低くなっています。記述式の問題の無回答率が高く、記述式の問題への抵抗感があると思われます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 二	必要に総じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかを見る	68.2	69.2
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	85.3	92.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	27.6	35.2
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	30.6	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

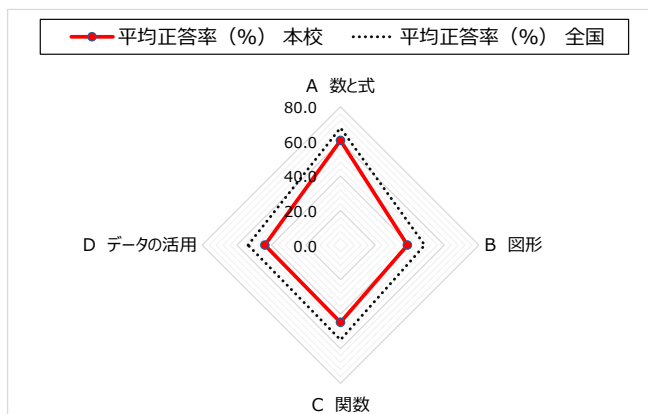
- 授業では、単元の中で、自分の考えをまとめ発表する活動を増やしていきます。その中で、相手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるかを吟味する学習活動を設定します。
- 随筆の単元等では、自分の感じたことや想像したことを書く活動を設定していきます。自分の考えが伝わる文章となるよう、表現の効果を考えて描写するような指導をしていきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習に取り組むうえで、今後は学習用端末を使用したAIドリル等の活用を検討してください。学校でも、「eラーニング」等のデジタル教材を提示しています。
- 読書の習慣をつけるために、図書館の利用を増やすことを勧めます。日頃から多様な表現や用語に親しむことで、自分の考えを表現する力につながります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	60.5	67.8
B 図形	38.7	48.7
C 関数	44.7	54.8
D データの活用	43.8	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	51.4	59.3
短答式	55.5	64.2
記述式	28.2	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 短答式や選択式の無回答率が低くなっていますが、わからない中でも積極的に問題に向き合おうとする生徒が多いと思われます。「知識・技能」の観点の問題の正答率が高い傾向があります。図形の問題では、全国平均は下回ったものの佐賀県平均を上回っていました。

● 「思考・判断・表現」の観点の記述式問題の無回答率が高く、説明できるかを問う、記述式の問題への抵抗感があると思われます。他教科でも同じような課題が見られました。抵抗感をなくし、まずは短答式や記述式の無回答率を低くすることが必要と考えます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	75.9	85.7
3	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうか。	44.7	49.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	24.1	33.9
9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	21.8	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 記述形式の問題に抵抗がある生徒が多いため、振り返りを書かせることで、文章を書く練習の機会を設定します。ただ「分かった」と書くのではなく、具体的に「何が分かったか」を書く習慣をつけるようにします。
- 数学的表現の定着のために、授業で教師が問い返しを行います。生徒の説明の意図を理解し、問い返しをすることで再思考を行う機会を促します。
- 定期的に2～3問の復習問題に反復して取り組ませることで基礎内容の定着を図ります。

【ご家庭では】

- 問題に取り組む習慣を身に着けることができるよう学校で期間を決めて問題に取り組む時間を設定します。身に着いた習慣を生かし、自発的な家庭学習の時間が増えるように、多様な家庭学習の課題を出しますので、家庭での見守りと励ましの言葉を願います。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	443
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.0 / 2	1.8 / 5	0.3 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
3	聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
10 (2)	書くこと	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
12	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 日常的な話題に関する問題では、選択式の問題で正答率が高い傾向が見られました。「思考・判断・表現」の「読むこと」に関わる問題が正答率が高いようです。

● 「思考・判断・表現」分野の主に「書くこと」を苦手とする生徒が多く、特に記述式の問題で正答率が低くなっています。今後は自ら考えたことを英語の文章で表現する経験を多く積み重ねる必要があると思われます。

調査結果を受けて

【学校では】

- Small talkや言語活動を通して、自分のことを英語で伝え合う活動を設定します。また、その活動の中で伝え合ったことを英作文で表現する活動につなげていきます。パフォーマンス課題では、自分の考えを表現する機会を、単元ごとに設けます。
- 生徒が英語に触れる機会を増やすために、学年に応じて段階的に英語を使った言語活動の時間を確保し、生徒が英語に触れる機会を増やします。

【ご家庭では】

- 授業中に学習したことを、学習後間をおかずに課題として出します。毎回取り組みやすい量を調整して出しますので、生徒の家庭での学習の取り組みの様子を見守っていただき、励ましの言葉をお願いします。
- 学習用端末を利用した家庭学習を勧めます。デジタル教科書やワーク付属のサイトを利用して、音読練習や並び替え問題に取り組む習慣をつけることで英語力向上が期待できます。